

C : 審査会の意見

事業名	「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト		
事業開始年度	平成31年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO 法人 MAMA-PLUG	担当課名	災害対策課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にしたい点など
- ・防災ピクニックは、市の事業という安心感や屋外開催ということで、子育て世代にとっては、コロナ禍で逆に参加しやすかったのではないかと思った。
 - ・防災冊子がダウンロードできるようになったり、YouTube で防災冊子や防災ピクニックの PR 動画が見られたり、より多くの人に情報が届けられるようになったこともよかったと思う。平塚市の防災 YouTuber 動画もついでに見てしまうなど、WEB メディアの活用で若い世代向けの災害対策として相乗効果もあったのではないかと感じた。
 - ・コロナ禍に小さい子も参加できるセミナーをきちんと開催でき、中には母親だけでなく父親も参加の講義が実施できたということで「手をつなぎたくなる街平塚の防災力の強化」につながったと思う。
 - ・知識編と実践編、そして防災ピクニックと段階を踏んでセミナーを開催しているので若い世代の防災教育が継続して平塚の街に根付くことを願っている。
 - ・12月には「保育士向け防災セミナー」「災害対策専門職研修」が実施できたということで、防災はまずは教師や専門職のメンバーがいざという時に適切な行動が取れることが大事なので、これからの企画も積極的に取り入れていただきたいと思う。
 - ・コロナ禍にもかかわらずリアルに講座を開催し、出席者からも高い評価を頂いている点が良い。
 - ・若い母親たちが不安を感じている災害への心構えや防災への取り組み方をしっかりと伝えている点が良い。
 - ・セミナー・ピクニックは具体的な内容でよかったと思う。
 - ・専門職研修は、専門職間の交流と理解したが、これは、ぜひ市内で広げて欲しい。
 - ・コロナ禍の中で、にもかかわらず、記されている活動実績は十分なものと推察される。
 - ・3年目となる今年度も状況は厳しいが、これまでの実績を生かし、成果を高めていただきたい。
 - ・9月～12月の短期間で7講座を開催したことや、周知方法として YouTube での動画配信を公開するなど、新たな取り組みも行い、団体と担当課それぞれの努力によりコロナ禍の状況の中でも、良好な成果が得られたと思う。
 - ・災害弱者となり易い妊婦等に関係の深い専門職に向けた事業が実施されたことは、今後の災害対策等の施策において、助言、実行できる者を養成することになると期待する。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・コロナ禍の災害対策は、備えや避難所運営、啓発のやり方など、これまでとは異なる対応が求められることが多々あると思う。この一年での経験を活かし、セミナーメニューや防災冊子のアップデートもぜひお願いしたい。
- ・この取り組みを継続させるためにも、ぜひ、市職員に対する勉強会や研修会にも力を入れて行ってほしい。
- ・協働事業で防災冊子を発行して好評だったと思うが、できれば「平塚版子連れ防災ブック」などをまた作成していただきたい。
- ・災害対策課の職員の方々がママプラグのノウハウを習得できるように、勉強会や研修をするよう努めるとのことで、防災に関心の薄い世代を取り込んでいく良い傾向ができるのではと期待している。協働事業後の平塚の防災教育の発展に繋がるようにしてほしい。
- ・ママプラグは平塚の団体ではないので、防災セミナーを受講した若い母親たちから防災の活動団体が発足できると良いのではと思う。講師の皆さんが相談にのって指導するなどの展開を望んでいる。
- ・出席者の意見に、一緒に連れてきた子どもの対応に追われて聞き逃したところがあった等の意見があったので、母親たちが安心して受講できるように工夫されると良いと思う。
- ・子育て層にとらわれず、高齢層などにも普及させる活動であってもよいかと思う。
- ・保育士や看護専門職への講座も行っているので、今後は保育士や保健師の視点を取り入れた啓発講座の検討や保育所や保健センターでの周知活動をさらに進めることで、より多くの妊婦や保護者への啓発を期待する。
- ・ママプラグとの協働事業の実績を今後の事業展開に活かしてほしい。また、適当な期間を空けて、新たな知見を得る趣旨でも、NPO 法人と連携した取組（委託事業）も必要かと思う。
- ・専門職向け事業に参加した保育士が全て公立園の保育士であったことから、次回は民間園の保育士に向けた事業展開を期待する。

C：審査会の意見

事業名	図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		
事業開始年度	平成31年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO法人ぜんしん	担当課名	中央図書館

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・図書館職員と団体スタッフとのコミュニケーションがとてもうまくいっている印象だ。作成されたマニュアルも詳細に、ビジュアル的にも見やすく作られており、ロールプレイで事前準備もしっかり行うなど、当事者の自立支援をとて丁寧で、着実に一歩ずつ前に進んでいると感じられる。
- ・団体と図書館の強みを活かした当事者の社会参加の機会提供が、平塚市独自の取り組みとして、定着していくよう期待している。
- ・図書館という文化的で落ち着いた環境で当事者の皆さんが作業できることは、団体スタッフと図書館職員との丁寧な事前準備のおかげで、マニュアルの資料も良くできていると感心した。
- ・ひきこもりで社会に接点を持って自信をつけて行きたいと願っている方は多いと思うので、今回のノウハウをいかして他の図書館でも作業ができるよう参加者を増やす事も考えられるのではないかなと思う。
- ・ひきこもりの子供たちに寄り添った対応をされている点が良い。
- ・双方が発信者と受信者として信頼関係がしっかりと構築されている様に思った。
- ・着実に成果を上げていると思うので、市の事業として定着させてほしい。
- ・昨年度の報告では、マニュアル作成に苦労されている様子が伺えたが、今般、マニュアルの仕上がりの素晴らしさを確認できた。
- ・ボランティア体験の参加者が目標を上回ったことや、10段階中、7に近い満足度があった体験者のアンケート結果などから、着実に実績を積み重ねていることが伺えた。
- ・図書館での作業が団体にとっての就労支援メニューに加わったこと、図書館にとっては不登校等の者を受け入れるための各種のマニュアルが完成し、図書資料の整理、図書資料の修繕が進んだことは、双方にとってメリットとなっている。更に、図書館利用者にとてても図書資料が整理されていることや図書資料の修繕が迅速にされることで、見たい図書資料が早く見られることに繋がると思う。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・将来的には、一般のボランティアや図書館利用者との接点ができるとういのではないかなと思う。また、報告会で提案があった、「本」のソフト事業（当事者のみなさんのおススメ本紹介とか読書会など）はぜひ企画して実施してもらえるとよいと思う。
- ・当事者本人の方が楽しんで作業ができているようなので図書館という場所での取り組みをいかして修復の作業などだけでなく、図書館の職員や「NPO 法人ぜんしん」のスタッフとも相談しながらテーマに沿った好きな本の紹介等もできるとさらに自信がつくのではないかなと思う。難しい面もあるかなと思うが挑戦してみるのも良い。
- ・協働事業後は色々な団体と連携して新たな活動を展開していくとのことだが、今までひきこもりの協働事業を担当してきた「青少年課」などとも協力して多くの当事者を支援していけることを期待している。
- ・本の修理に関わっている子供たちが、その作業をきっかけに本に興味を持って読書をするように導けば、本を読むことで更に彼らの心にプラスの効果を育むことができるのではないだろうか。
- ・図書館が4館設置されていることは、本市の強みとするところであり、こうした協働事業も、今後の図書館運営で強みの一つに加えてもよいと思う。
- ・不登校やひきこもりからの自立は、時間がかかり、それぞれの個人の特性に応じた継続的な支援が必要になるため、当事者が選べるような、別メニューの追加も考えられると思う。（ボランティアの前段階としてのメニュー、例えば図書館司書が対象者向けに選定した本の読書会など）
- ・地区図書館への指定管理者制度の導入など、図書館運営方法が変わるときだ。今回の協働事業の結果を踏まえ、不登校等の者の受け入れの仕組みなどを検討し、今後の図書館運営の中で活かしてほしい。

C : 審査会の意見

事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業		
事業開始年度	令和2年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO法人 フードバンクひらつか	担当課名	環境政策課

(1) 良かった点(さらに伸ばして欲しい点)

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・NHKなど多くのメディアで先駆的な取り組みとして紹介され、注目が集まったことで、今回の協働事業内容についての理解に加え、団体のフードバンク活動や食品ロス問題への関心が市域を超えて深まったのではないかと思う。
- ・初年度アプリの開発がほぼ予定通りできたことは良かったと思う。
- ・この事業は食品ロスの削減と貧困者や貧困家庭への支援という2つの大事なミッションがあるが、WEBシステムの構築で企業やお店にもメリットになる廃棄物削減取り組みで上手く進めば全国的な先進事例になるのではと皆さんの努力に頭が下がる思いだ。営業展開で丁寧にわかりやすい説明を心がけていることで協力寄付してくれる幅が広がっているのだと感じる。
- ・NHKなどマスメディアでも取り上げられているとのことだが、地元の市民の皆さんにフードバンクの通常の活動だけでなく、協働事業やアプリについてももっと知っていただくよう地元のメディアも活用して広報していただきたい。
- ・スマホを使って簡単・効率的に事業を推進できる様に新たなシステムを構築しているところが素晴らしいと思う。
- ・優れた着眼点と技術ですすめているので、大きな期待ができる。
- ・メディアに取り上げられたことを好機とし事業量を進展させていただきたい。
- ・この活動を継続するための運営費を捻出するための独自システムであるWEBシステムが完成できたことは大きな成果であり、今後は食品関連事業者の理解を得て、本格稼働することにより安定した運営ができることを期待する。
- ・一定の段階までシステムの開発が進み、運用を開始し、事業が進んでいることに安心している。また、保管場所に困るほどの食品が確保できたことは、スタッフの努力の結果だと思う。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・事業者への営業活動や倉庫の確保など、引き続き行政としての力を発揮していただくようお願いしたい。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大で営業展開もスムーズに行かない面もあると思うが、すでに協力してくれている企業やお店の事をその企業の PR もかねて同じ書式のチラシなどを作成して積み重ね、こんなに増えて来ていると宣伝するとより一層良い展開になるのではないかと。市民個人でも応援したい人は多いので PR していくのも良いと思う。
- ・寄付の品が増えたことで倉庫が足りないという問題が出ているということだが、協力してくれる企業や空き家を持つ個人の方もこの協働事業を広く皆さんに知らせることで申し出てくれることもあるかと思う。または協働事業としての予算化も考えてみてはどうか。
- ・希望者が求めるタイミングで食品の供給がスムーズに出来る様になれば完璧だと思う。
- ・周辺費用は、この仕組みでは十分にとれないように思うので、SDGs の観点からの公費補助を得ることを今後提案してはどうか。
- ・環境負荷の低減や貧困対策など、この事業の目的とすることは多岐にわたる。SDGs の視点からも、重要かつ欠くことのできない事業であり、単に協働事業で済ますものではないように進展していくと思われる。今後、行政の役割、かかわり方について、議論が必要と思われる。
- ・WEB システムを利用するにあたり、損金計上できること以外のメリット、例えば、市側でも該当企業について「食品ロス削減協力企業」であることをホームページなどで PR するなど、後方支援を行うなど、企業側にシステム経費以上のプラス要素があると思ってもらえると、企業側も受け入れやすいのではないかとと思う。
- ・今後、食品の提供事業者との契約が進むと、今まで以上の食品が集まることとなる。当初の計画ではフードバンク活動をする他団体の繋がりも活用し対応していくと聞いている。新たな食品保管場所の確保は当初の計画にはなかったものと認識している。改めて新規契約の活動、食品保管場所及び他団体との連携について検討をすべきと思う。
- ・相対的貧困解消は、当該事業の目的の一つ。その実績等の報告がなかったと認識している。どのように、どのくらい、何世帯に食品の配布ができたのか等、次の機会に必ず報告してほしい。

C：審査会の意見

事業名	平塚市生物多様性保全推進事業		
事業開始年度	平成31年度～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	ひらつか生物多様性推進協議会	担当課名	環境保全課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・市役所でのパネル展やリーフレットの配布、オンライン開催のパネルディスカッションなど、コロナ禍であっても啓発活動が行えたことは良かったと思う。
- ・コロナ禍に工夫しながら調査の活動が進んだということで、生物多様性のわかる「自然環境評価書」完成が楽しみだ。色々な団体のたくさんのメンバーが活動に参加しているということも大きなメリットになると思う。
- ・パネル展やオンラインでのディスカッションも実施されたということだが、パネル展で配布したパンフレットが好評だったとのことだが、ひらつか市民活動センター等でも展示したり配布することは可能ならばお願いしたい。
- ・地球環境保護の観点からも地道ではあるがとても大切な取り組みだと感じた。
- ・市民から生物多様性推進の必要性を理解してもらった活動を続けて欲しい。
- ・コロナ禍で、活動が滞る中、成果物のまとめに至ったことは、評価できる。
- ・「水域」調査として、市内4か所の調査エリアでの生物調査やオプション地点として独自に選定したエリアでの調査により、アクションプラン策定のための基礎データの充実を図ることができたと思う。
- ・コロナ禍でも自然環境評価書の策定に必要な基礎データの収集は、ほぼ計画どおり出来たものと理解した。団体の会員さんの御努力に感謝する。
- ・様々な活動をする共同体である当該協議会が協働事業に参加していただいたことは、その高い専門性を活かせることとなり、策定する自然環境評価書も充実したものになると期待できる。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

・リーフレットの写真も素晴らしく、平塚市のホームページに PDF で掲載されているので誰でも見られるようにはなっているが、もう少しアクセスしやすい場所に、散策先でもすぐにスマホで見られるような形になっていると、より多くの市民に（特に若い世代に）知ってもらえる機会が増えるのではないかと思う。

・今回で協働事業は終了とのことだが、市民団体が連携して調査してきた事は、これからの平塚市の環境を守り、生物多様性保全の必要性を市民に知っていただく大きな力になっていくと思う。啓発活動の継続を期待している。

・生物多様性保全は結局のところ地域環境を適切に整えていく事が求められると思うので、今後は市民意識の啓発活動にも力を入れていく必要があると思う。その手始めとして自分の暮らす地域に生息している虫や鳥たちの事を日常の中で知ることが出来るように地域の公園などに掲示板などを設置してみてもどうか。

・この事業については、成果内容を確認することがしづらく、内容の確認評価に至れないことが、特徴であり、課題でもあると感じた。

・この後、アクションプランの作成が控えているとのことであるが、協働事業の位置付けについては、しっかりとした議論が必要と思われる。

・「水域」4か所を始めとして、オプション地点での調査結果内容など広範囲の地域データのため、記述する内容が重複しないような調査結果の取りまとめをお願いしたい。

・今後、策定予定の（仮称）生物多様性アクションプランに揚げられる各種の取組にも当該協議会を構成する団体等の御協力が欠かせないものと思うので、今後も何かの形で（仮称）生物多様性アクションプランの策定にも関わっていただくことも検討してほしい。

C : 審査会の意見

事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施		
事業開始年度	令和2年度～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	ひらつか着地型観光 推進委員会	担当課名	商業観光課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・実施されたプログラム数が少なかったものの、内容的にはとても興味をそそられる、魅力的なイベントで、参加者満足度も高かったのではないかと感じた。
- ・「市内の事業者から今後協力したいという申し出があった」とのことだが、ぜひ、団体の発想力、企画や広報のスキルを伝えながら事業者自身のプログラム開発をサポートし、この事業が広がっていくことを期待している。
- ・地域観光のプログラム開発をどこに焦点を合わせて展開していくのかと心配していたが、「まちまるごと学び舎」の構想ができそれに沿って、コロナ禍でも5つの「着地型観光プログラム」の開発と実施ができたことは評価したいと思う。
- ・全国的には七夕やベルマーレ以外はあまり知られていない平塚の現状の中で、観光資源の原石を見つけて育てていこうという姿勢は大変評価できる。
- ・目覚ましい成果が出るような取り組みであると思うので、努力を続けていって欲しい。
- ・コロナ禍のなかで、十分ではないにしてもイベントが開催できたことは喜ばしいことと思う。
- ・SNSやオンライン会議アプリを活用して、団体と市がミーティングを週に1回から2週に1回の頻度で緊密に行い、連携ができたこと、その結果、観光プログラムを5回開催したことなどで、事業の目的である隠れた観光資源に光を当てるきっかけづくりができたのではないと思う。
- ・コロナ禍で計画の縮小はあるものの、5事業が実施され、参加者から好評であったことは評価されるものと思う。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・「平塚の新しいイメージやブランドを創り出していき、関係人口を増加」させるためには、市外の方への周知の工夫はもちろんのこと、コロナ禍でなかなか市外の人を呼び寄せることが難しい状況の中でも、たとえば WEB 上で平塚の魅力を発信し続けることはできると思う。コロナが落ち着いたときにぜひ「平塚」に行ってみたいと思ってもらえるように、「まちまるごと学び舎」のコンセプトに加え、「平塚」という場所のイメージをより強く打ち出していくとよいのではないかと思う。
- ・雨で中止となった「里山探検隊」は残念だったがプログラムを決めた場合、延期などの対応で実施した方がよかったのではないか。
- ・色々なプログラムを開発していくことは大事だが、その際にお願いして協力してくれる団体やスタッフがすでに実施している内容に頼るだけでなく、この協働事業の平塚の「着地型観光の特色」「コンセプト」がしっかりわかる工夫を具体的に示して行くことが大事だと考える。
- ・たくさんのプログラムがあっても それに参加した場合に「まちまるごと自然環境学舎」として共通する「認定証」や「実施したことを記録できるカード」などを渡すなど思い出になる楽しい企画やアイデアを出して特色付けて欲しい。
- ・HP を作成しているようですので更なる充実を願っている。
- ・事業の目標やその為のプロセスが具体化していない様に思われるので、もう一度整理してみてもどうでしょうか。
- ・着地型観光という言葉はまだ一般の人達には浸透していないので、対象者(本来は旅行者)に向けて使うと意味が通じないと思うので一考すべき。
- ・課題を洗い直して頑張ってもらいたい。
- ・「体験型観光」と表現した方が理解は進むと思われる。「着地型観光」の意味を整理浸透させるには、行政サイドの議論が必要ではないか。また、当初からの指摘でもある観光協会と位置関係も整理すべきと思う。
- ・観光プログラムで得た感動や楽しさを、参加者自身から SNS で発信してもらえるように、あらかじめ写真映えする場所や撮影方法などを下調べしておき、当日にスタッフからレクチャーをするなど、周知について民間の取組も参考にして、口コミ的に事業の良さが広がっていく手法を検討してほしい。
- ・既存の観光資源の活用に加え、様々な団体等の協力を得ながら、平塚市らしい新たな観光資源の開発を継続的に実施する必要がある。